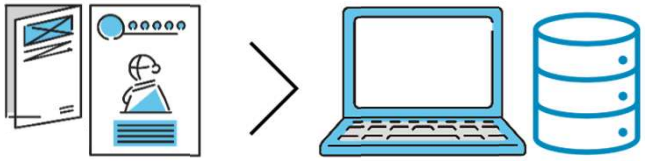
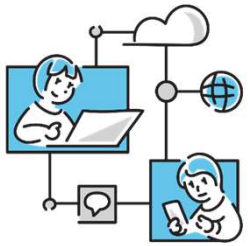
１.デジタル改革（ＤＸ）がもたらす社会の変化

「デジタル」をめぐる石川県の現在地

業務基盤の「デジタル化」を土台に、今後は**「デジタル改革（DX）」**へ







デジタイゼーション（紙と業務のデータ化等）	デジタライゼーション（業務プロセス改善）	デジタルトランスフォーメーション（仕組み・構造の変革）
▸ ビジネスチャットで素早く情報共有 ▸ 紙の日報をExcel入力・管理に ▸ 文書決裁を電子決裁に	▸ 業務プロセスの全体を可視化 ▸ 個々の業務システムを自動連携 ▸ 定型業務の自動化（RPA）	▸ AIによる業務の自動化・最適化 ▸ インフラ劣化の予測・補修判断 ▸ 災害時も避難判断を迅速化
場所に縛られず業務を遂行 情報の共有・検索が容易に	**関連する業務システムを連携 業務プロセスを最適化**	**利用者目線、分野のヨコグシ、 先読み・先回りの実現**

「石川県デジタル化推進計画」（R3～R7）★ 現在地 → **「石川県DXビジョン」に基づき、ＤＸのステージへ**

ＤＸがもたらす社会の変化のイメージ

①サービスは供給者目線から「利用者目線」へ
分野ごとの「タテワリ」から「ヨコグシ」へ

デジタル技術の進歩により、異なる組織や分野の垣根を越えたデータ連携は容易となり

行政や企業・団体が分野ごとにサービスを提供する**供給者目線の「タテワリ」の社会**から

一人ひとりが必要なサービスを自ら選び、組み合わせて利用する**利用者目線の「ヨコグシ」の社会**へ

供給者目線

「タテワリ」の社会

- 行政や企業・団体では、部門ごとに制度やサービスが構築される。利用者のニーズに対して分野横断的に、サービスの選択肢を提供するのは難しい

利用者目線

「ヨコグシ」の社会

- 共通のルールの上で、複数サービスを連携させることで、利用者が一連のサービスを選び、組み合わせ、シームレスに利用できる

ＤＸがもたらす社会の変化のイメージ

②平時・災害時を問わない「フェーズフリー」の一貫したデジタル活用へ
③人の役割は、データとAIの強みを生かした「先読み・先回り」の判断や調整へ

例えば、人口減少する地方社会には、次のような重大課題がある

公共インフラの老朽化は進み	専門技術人材も不足する中	年々、災害リスクの高まりを感じている
		
更新・維持コストは年々増大	人口減少・少子高齢化の進行	能登半島地震・奥能登豪雨など大規模災害の発生

例えば、一つのドローンで、「平時」はインフラ点検、「災害時」は迅速な被害把握をする

広域監視（状況把握）やデータの蓄積・分析（記憶・計算）をデジタルに任せることで、

人は「先読み・先回り」や「より高度な判断や調整」に注力できる